

シンポジウム

高知に自然史博物館をつくる意義

令和8年1月10日 13時～16時半

オーテピア4階ホール

基調講演

ふじのくに地球環境史ミュージアムの取組と学校標本

早川宗志(ふじのくに地球環境史ミュージアム)

ふじのくに地球環境史ミュージアム
Museum of Natural and Environmental History, Shizuoka

主催：高知に自然史博物館をつくる会

共催：日本ミュージアム・マネジメント学会(JMMA)中・四国支部会
高知みらい科学館、こうちミュージアムネットワーク
四国自然史科学研究センター

名義後援：高知県、NHK 高知放送局、高知新聞社、RKC 高知放送

参加費無料

事前申込不要

写真 ©Nacása & Partners



本イベントは、令和7年度NPO法人環境の杜こうち豊かな環境づくり総合支援事業費補助金を受けて開催いたします。



できたら
いいな

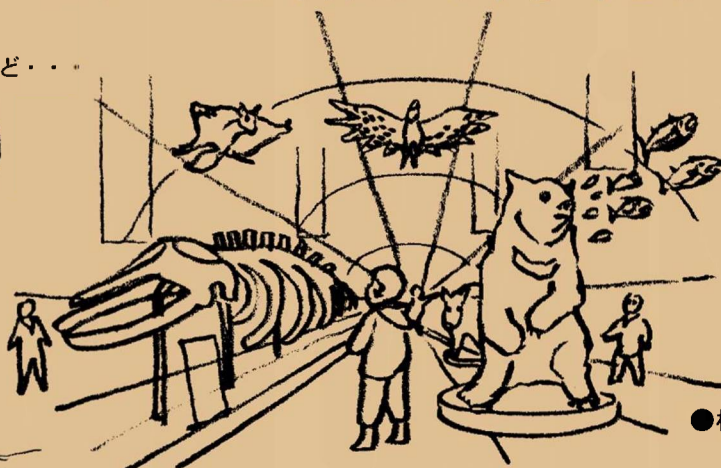
Natural History Museum of Kochi

高知自然史博物館

“高知の自然”を
ミュージアムに!

日本にはいろいろな
「自然史博物館」があるけど・・・

“南四国の自然”を
伝える博物館が
ないんだよな～



●標本を収蔵保管・研究し未来に伝える

●高知の自然を紹介する常設展示や企画展を



●観察会や標本作製講座を開いて
博物館を支える仲間をつくる



●野外調査を冊子にまとめたりトーク
イベントなどで紹介 etc・・・



自然史博物館
について



アンケートに
答えてね～



* Designed by 里見デザイン室 (令和6年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業)

事前申込不要

シンポジウム

参加費無料

高知に自然史博物館をつくる意義

令和8年1月10日(土)13時～16時半

オーテピア4階ホール

【開催趣旨】

高知県内には132コレクション(約235,000点)の生物標本が存在する。その多くは保存環境が十分ではなく、また管理者の高齢化によって今後の存続が危ぶまれている。これらの標本は高知県の自然環境の変遷や生物多様性を知るために不可欠な証拠であり、失われれば再び入手することができない貴重な財産である。

高知に自然史博物館をつくる会は、標本とともに情報の記録を保存し、未来へ継承するための施設である高知県立自然史博物館を設立することを目的に活動をしている。

本シンポジウムでは、基調講演「ふじのくに地球環境史ミュージアムの取組と学校標本」と題し、高校の廃校校舎を利活用した自然史博物館における標本保管の取組をご紹介します。

その後、総合討論「高知に自然史博物館をつくる意義」と題し、パネリストとして高知県内外の博物館学芸員に参集いただき、ご自身の立場から「高知県に自然史博物館をつくる意義」などについてコメントをいただき、パネリスト同士、参加者の皆様との意見交換を行い、今後の展望について協議、検討する。

【スケジュール】

- 13:00 開会 総合司会 美濃厚志(高知昆虫研究会)
開会挨拶・趣旨説明
谷地森秀二(高知に自然史博物館をつくる会)
- 13:10 報告
「高知に自然史博物館をつくる会の活動」
谷地森秀二
- 13:40 質疑応答
- 13:50 基調講演
「ふじのくに地球環境史ミュージアムの取組と学校標本」
早川宗志(ふじのくに地球環境史ミュージアム)
- 14:40 質疑応答
- 14:50 休憩・会場整備
- 15:05 総合討論
「高知に自然史博物館をつくる意義」
○コーディネーター
高橋信裕(高知みらい科学館館長・JMMA 理事)
○パネリスト
井藤大樹(徳島県立博物館)
笠貫ゆりあ(高知みらい科学館)
甲能直樹(国立科学博物館)
前田綾子(高知県立牧野植物園)
- 16:15 閉会挨拶 高橋信裕
- 16:25 閉会

【情報交換会】

日時：1月10日(土)17時半～19時半 会場：高知城下の居酒屋 参加費：5,000円

こちらは、要事前申込。参加希望の方は1月4日17時までに、medobuchi@yahoo.co.jp ヘメールでお申し込み下さい。